

2023年度環境経営レポート

(対象期間:2023年8月1日～2024年7月31日)

株式会社 南淡路建設

発行日:2024年11月5日

目 次

1. 環境経営方針
2. 組織概要
3. 認証・登録の対象組織及び活動
4. 実施体制
5. 主な環境負荷の実績
6. 環境経営目標及びその実績
7. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の環境経営計画
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

1. 環境経営方針

環境経営方針

基本理念

株式会社 南淡路建設は、地球環境の保全が、いま私たちに課せられた重要な責務であることを強く認識し、従業員一人ひとりの意識の向上をはかり、全社で積極的に環境保全活動に取り組みます。

行動指針

1. 私たちは、次のことについて重点的に取り組みます。

- 1) 二酸化炭素排出量の削減
- 2) 廃棄物の削減
- 3) 水使用量の削減
- 4) 環境配慮施工の推進
- 5) 工事の効率的運用

これらについて環境経営目標、環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。

2. 私たちは、環境に関連して適用される法令、及び、その他の同意する要求事項を守ります。

3. 私たちは、働きがいのある職場づくりに取り組みます。

4. この環境経営方針を全ての従業員に周知します。

制定日：2014年3月20日

改定日：2023年1月4日

株式会社 南淡路建設

代表取締役

津田 育生

2. 組織概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 南淡路建設
代表取締役 津田 育生

(2) 所在地

本社: 兵庫県南あわじ市阿万下町261番地2

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者: 代表取締役 津田 育生 TEL: 0799-53-6555

担当者: 代表取締役 津田 育生 TEL: 0799-53-6550

(4) 事業内容

総合建設業
兵庫県知事 許可 28-801767 号
土木工事業 建築工事業 とび・土工・コンクリート工事業
石工事業 管工事業 鋼構造物工事業
舗装工事業 しゅんせつ工事業 塗装工事業
造園工事業 水道施設工事業 解体工事業

(5) 事業規模

売上高: 774 百万円 (2023年6月～2024年5月)
工事件数: 45 件 (2023年6月～2024年5月)
従業員数: 13 人 (2024年10月1日現在)

本社延床面積	35㎡
--------	-----

(6) 事業年度

6月～翌年5月 (但し、環境年度は、8月～翌年7月)

3. 認証・登録の対象組織及び活動

認証・登録事業者名: 株式会社 南淡路建設

対象事業所: 本社

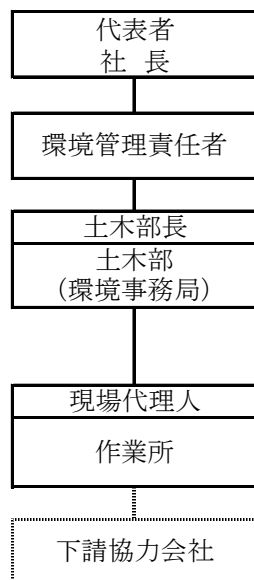
事業活動範囲	土木工事業	建築工事業	とび・土工・コンクリート工事業
	石工事業	管工事業	鋼構造物工事業
	舗装工事業	しゅんせつ工事業	塗装工事業
	造園工事業	水道施設工事業	解体工事業

当社の全組織・全活動を対象とする。

※本レポートの対象期間及び発行日は、表紙に記載

※次回発行予定日 2025年10月

4. 実施体制



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境関連法規等の取りまとめ表の作成及び遵守評価 ・環境経営目標を設定 ・環境経営計画を策定 ・教育訓練計画の立案と実行管理 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境関連業務の手順書作成 ・環境関連の事故及び緊急事態の想定と手順書の作成 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21事務局 ・環境活動の実績集計 ・環境経営レポートの作成、公開(地域事務局への送付)
部門長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応の試行、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
現場代理人	・担当工事に於ける環境経営システムの実施 ・環境配慮施工の実施 ・生産性向上への取組み実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

5. 主な環境負荷の実績

項 目	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量	kg-CO2	134,562	98,715	56,820	56,820	102,378
一般廃棄物排出量	kg	173.3	176.9	178.8	178.8	157.8
産業廃棄物排出量	t	507.2	764.3	311.9	311.9	1,166.5
水使用量	m ³	53.1	59.3	57.9	57.9	35.6

6. 環境経営目標及びその実績

項目	年 度		基準値	中期目標(3カ年)				
				2022年度	2023年度			2024年度
	環境経営方針と整合		基準年度	目標	目標	実績	達成度	目標
事務所	電力使用に伴う二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	4,315	4,271	4,228	3,778	111.9%	4,185
		基準年度比	2021年度	-1.0%	-2.0%	-12.4%	○	-3.0%
	電力使用量	kWh	10,322	10,219	10,116	9,038	111.9%	10,012
		基準年度比	2021年度	-1.0%	-2.0%	-12.4%	○	-3.0%
	一般廃棄物排出量削減	kg	178.8	178.8	178.8	157.8	113.3%	178.8
		基準年度比	2021年度	±0%	±0%	-11.7%	○	±0%
	水使用量削減	m ³	57.9	57.9	57.9	35.6	162.6%	57.9
		基準年度比	2021年度	±0%	±0%	-38.4%	○	±0%
建設現場	電力使用に伴う二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	1,408	1,394	1,380	5,848	23.6%	1,366
		基準年度比	2021年度	-1.0%	-2.0%	+315.4%	×	-3.0%
	電力使用量	kWh	3,368	3,334	3,301	13,990	23.6%	3,267
		基準年度比	2021年度	-1.0%	-2.0%	+315.4%	×	-3.0%
	燃料使用に伴う二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	50,940	50,430	49,921	92,496	54.0%	49,412
		基準年度比	2021年度	-1.0%	-2.0%	+81.6%	×	-3.0%
	ガソリン使用量	L	5,473	5,418	5,364	10,888	49.3%	5,309
		基準年度比	2021年度	-1.0%	-2.0%	+81.6%	×	-3.0%
	軽油使用量	L	14,822	14,674	14,526	26,060	55.7%	14,377
		基準年度比	2021年度	-1.0%	-2.0%	+75.5%	×	-3.0%
	産業廃棄物混載率低減	%	13.0	13.0	13.0	13.1	99.2%	13.0
		基準年度比	過去3カ年平均	±0%	±0%	+0.1%	×	±0%
	産業廃棄物再資源化率向上	%	98.8	98%以上	98%以上	99.0	101.0%	98%以上
		基準年度比	2020年度			+1.0%	○	
	環境配慮施工実施	件	全件	全件	全件	全件	100.0%	全件
						41/41	○	
	生産性向上(早期完成率)	%	96.6	96.6	96.6	88.9	92.0%	96.6
		件	56/58			40/45		±0%
		基準年度比	2021年度	±0%	±0%	-7.7%	×	±0%

- ※1. 電力のCO₂排出量については、関西電力株式会社の平成29年度実績調整後排出係数 0. 418 (kg-CO₂/kWh)を使用した。
- ※2. 灯油とLPGは、使用量が微量のため、削減活動は行いが、環境経営目標の対象とはしない。
- ※3. 産業廃棄物混載率とは、諸口工事の産業廃棄物排出量に占める混合廃棄物の割合のこと。
産業廃棄物混載率(%) = 混合廃棄物排出量(t) / 諸口工事産業廃棄物総排出量(t)
2023年度産業廃棄物混載率13.1(%) = 4.51(t) / 34.54(t)
- ※4. 産業廃棄物再資源率とは、全ての建設工事の産業廃棄物排出量に占める再資源化量の割合のこと。
産業廃棄物再資源化率(%) = 再資源化産業廃棄物量(t) / 産業廃棄物総排出量(t)
2023年度産業廃棄物再資源化率99.0(%) = 1,154.9(t) / 1,166.5(t)
- ※5. 環境配慮施工とは、排ガス対策型建設機械の使用、低騒音機械の使用、騒音対策の実施、環境配慮資材の使用、環境に配慮した施工方法等これには、作業環境(安全衛生、長寿命化のための品質確保)を含む。
- ※6. 生産性向上は、契約工期に対して早期完成(工期内)した工事件数割合とする。
- ※7. 化学物質の使用はないため、「化学物質使用量の削減」目標は設定していない。
- ※8. 産業廃棄物混載率低減目標の基準値は、2019年度⁶～2021年度の過去3カ年実績の平均値とする。

7. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

(1) 2023年度の取組み結果とその評価

数値目標：○達成、×未達成(年度目標未達成の場合は必要に応じて是正処置実施)

活動計画：◎良くできた、○概ねできた、△あまりできなかった、×全くできなかった

取組計画		年間 達成状況	取組結果とその評価 (総括)
電力使用に伴う二酸化炭素排出			
環境経営目標の達成状況	○	目標は達成できた。	
・照明、OA機器等不使用は時電源切る	◎	取組計画の実施状況は、照明、OA機器等の不使用時の電源OFFは定着している。また、空調の適温化、エアコンフィルタの清掃は概ね実施できていた。冷房時の扇風機活用も効果があった。次年度も継続して実施する。	
・空調の適温化(冷房28℃、暖房20℃)	○		
・エアコンフィルターを清掃	○		
・冷房時の扇風機活用	○		
一般廃棄物排出量削減			
環境経営目標の達成状況	○	目標は達成できた。これ以上の削減は難しい。取組計画の実施状況は、ごみの分別は定着している。また、両面印刷、両面コピー、裏紙の再利用は概ね実施できている。次年度も継続して実施する。	
・ごみの分別を徹底する	◎		
・両面印刷・両面コピーを心がける	○		
・裏紙を再利用する	○		
水使用量削減			
環境経営目標の達成状況	○	目標は達成できた。	
・バルブの調整	○	取組計画の実施状況は、バルブの調整は実施できている。節水も概ねできている。次年度も継続して実施する。	
・節水に努める	○		
燃料使用に伴う二酸化炭素排出			
環境経営目標の達成状況	×	目標は達成できなかった。工事内容の影響が大きかった。取組計画の実施状況は、過積載禁止は徹底しており、点検整備も概ね実施できている。省エネ運転についてはもう少し意識を高めて実施する必要がある。CO2削減に繋がる創意工夫実施は難しいが検討の余地がある。次年度も継続して実施する。	
・アイドリングストップ等省エネ運転実施	○		
・過積載をしない	◎		
・機械の点検整備を行う	○		
・CO2削減に繋がる創意工夫実施	△		
産業廃棄物混載率低減/再資源化率向上			
環境経営目標の達成状況	×	混載率目標は僅かに未達成、再資源化率目標は達成であった。分別が難しい廃棄物の割合が多かったことが混載率目標未達成原因である。取組計画の実施状況は、マニフェストによる管理は徹底されている。概ね分別も出来ている。次年度も継続して実施する。	
・分別を徹底し、リサイクルに努める	○		
・マニフェストにより適正管理する	◎		
環境配慮施工実施			
環境経営目標の達成状況	○	目標は達成できた。	
・施工計画書への反映と遵守	○	各現場の取組計画の実施状況は、環境面を顧慮した施工計画立案と創意工夫及び地域貢献は対応が難しい現場を除いて実施できていた。次年度も継続して実施する。	
・創意工夫の提案	○		
・地域貢献の実施	○		
生産性向上			
環境経営目標の達成状況	×	目標は達成できなかった。	
・綿密な施工計画を策定する	○	各現場とも工程計画どおりに段取りよく作業ができていたが、他責による変更がありわずかに遅延が発生した現場があった。ICT活用工事を受注し施工している。次年度も継続して実施する。	
・確実にフォローアップする	○		
・現場作業を効率化する	○		
・ICT活用工事受注・施工	○		

(2) 2024年度の取組み計画

	取組計画	日程	責任者 (担当者)
事務所	電力使用に伴う二酸化炭素排出量削減		
	環境経営目標の達成状況	毎月	津田
	・照明、OA機器等不使用は時電源切る	通年	従業員
	・空調の適温化(冷房28℃、暖房20℃)	冷房6～9月、暖房12～3月	従業員
	・エアコンフィルターを清掃	1回/月(使用期間中)	津田
	・冷房時の扇風機活用	冷房時	従業員
	一般廃棄物排出量削減		
	環境経営目標の達成状況	毎月	津田
	・ごみの分別を徹底する	通年	従業員
	・両面印刷・両面コピーを心がける	通年	従業員
	・裏紙を再利用する	通年	従業員
	水使用量削減		
	環境経営目標の達成状況	毎月	津田
建設現場	・バルブの調整	通年	津田
	・節水に努める	通年	従業員
	燃料使用に伴う二酸化炭素排出量削減		
	環境経営目標の達成状況	毎月	津田
	・アイドリングストップ等省エネ運転実施	通年	運転手
	・過積載をしない	通年	運転手
	・機械の点検整備を行う	使用前	運転手
	・CO2削減に繋がる創意工夫実施	施工計画時	現場代理人
	産業廃棄物混載率低減/再資源化率向上		
	環境経営目標の達成状況	毎月	津田
	・分別を徹底し、リサイクルに努める	通年	作業員
	・マニフェストにより適正管理する	排出時	作業員
	環境配慮施工実施		
	環境経営目標の達成状況	毎月	津田
	・施工計画書への反映と遵守	工期中	現場代理人
	・創意工夫の提案	工期中	現場代理人
	・地域貢献の実施	工期中	現場代理人
	生産性向上		
	環境経営目標の達成状況	毎月	津田
	・綿密な施工計画を策定する	工期中	現場代理人
	・確実にフォローアップする	工期中	現場代理人
	・現場作業を効率化する	工期中	現場代理人
	・ICT活用工事受注・施工	通年	津田

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規等は次のとおりです。

法規制等名称	遵守事項	遵守状況
騒音規制法	特定建設作業	遵守
振動規制法	特定建設作業	遵守
兵庫県環境の保全と創造に関する条例	特定建設作業	遵守
廃棄物処理法	委託契約、マニフェスト管理、保管基準	遵守
南あわじ市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	一般廃棄物	遵守
家電リサイクル法	特定家電の適切な引渡し及び料金支払い	遵守
建設リサイクル法	分別解体、特定建設資材廃棄物再資源化	遵守
オフロード法	基準適合表示等が付された特定特殊自動車の使用	遵守
石綿障害予防規則	作業主任者の選任、特別教育	遵守
下水道法	排水設備の改築、修繕、清掃その他の維持管理	遵守
自動車リサイクル法	使用済自動車の引渡、再資源化預託金	遵守
消防法	消火器の設置、点検	遵守
淡路広域消防事務組合火災予防条例	作業中の防火管理、指定数量未満の危険物取扱い	遵守
フロン排出抑制法	第1種特定製品の管理者が講ずべき措置(簡易点検・記録)、第1種特定製品廃棄等実施者の役割、特定解体工事元請業者の確認及び説明	遵守
大気汚染防止法	解体工事に係る調査及び説明等	遵守

2024年8月23日環境関連法規等の遵守評価の結果、環境関連法規等は遵守されていました。
なお、関係当局よりの違反等の指摘及び訴訟は、過去ありませんでした。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日： 2024年9月2日
代表取締役 津田 育生

【見直し項目】

◇環境経営方針	変更無
◇環境経営目標・環境経営計画	変更無
◇実施体制	変更無
◇その他システム	変更無

【総括】

2004年より環境活動に取り組んできた結果、従業員の環境意識が向上してきたと実感しています。環境負荷低減については、低減限界が近づいているものがあります。環境負荷低減の活動は継続して実施できていますが、工事量及び工事内容により目標の達成未達成が左右される傾向があります。そのため、工事ごとに環境負荷低減に取り組むことが重要です。“生産性向上”を目標に掲げており、改善活動をさらに進めていきます。今後とも、弛まず環境負荷を低減する活動を継続していきます。

なお、今回見直しの結果、次のことを指示しました。

- ・ICT施工技術をさらに高め、生産性向上を図ること。
- ・ICT施工の課題と対応策について検討すること。
- ・他責であっても早期対応を要請し工期遵守に努めること。